

附属東雲中学校の皆さん、おはようございます。
一年生の皆さんは入学から、二年生と三年生の皆さんは進級から10日が経とうとしていますが、いま皆さんの「こころ・からだ」の様子はどうでしょうか。

私もこの学校の校長になってから今日で16日目です。先週の金曜午前は大学三年生、午後は大学一年生の講義を教育学部の大講義室で行いました。昨日の午後も大学院生たちとゼミというのを大学で行っていました。

そして今日はこうして附属東雲中学校の皆さんに全校朝会でお話をしている中ですが、私の「こころ・からだ」はこの16日の間にもものすごい変化を経験していることに間違いはなさそうです。皆さんはどうでしょう。

さて、一年生の皆さんには入学式で私からも「東雲憲章」の話を少しだけしました。二年生と三年生の皆さんには始業式で「東雲憲章」に似た「ユネスコ憲章」の話をしました。改めて「ユネスコ」とは「国際連合教育科学文化機関」の略称になりますが、その「ユネスコ」が定める「ユネスコ憲章」の前文は「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」です。英語では That since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men that the defences of peace must be constructed. です。

このユネスコに日本が加盟したのは、いまから74年前の1951年です。実は日本がユネスコへ加盟する大きなきっかけをつくったのは広島大学の初代学長である森戸辰男です。森戸は広島県の出身で東京帝国大学で学び、東京帝国大学の助教授の時に発表した論文のために起訴され巣鴨監獄の独房で3か月のいわゆる獄中生活を余儀なくなされました。

これは第二次世界大戦の前のことになります。その後、戦争が終わり、日本が新しい社会をつくって行くときに、戦後の第1回国会で何と森戸は文部大臣となってユネスコへの加盟の必要性を真っ先に世に訴えかけました。

第二次世界大戦の前には獄中生活を送っていた森戸がなぜ、戦後に文部大臣になり、どうして真っ先にユネスコ加盟を訴え、そしてその後何があって広島大学の初代学長になったのでしょうか。その時の森戸の「こころ・からだ」はどうだったのでしょうか。

また最初の全校朝会で皆さんの前にいる新しい校長はどうしてこんな話をしたのでしょうか。今日の話は、これで終わりますが、続きはまた今後にといいつつ、「こころ・からだ」の変化を皆さん自身で大切に見守っていきましょう。